

「被災生活を支える食の備えのあり方」を指摘された阪神淡路大震災と中越大震災。
東日本大震災においても、被災生活を支える食の改善は進んでいませんでした。
これらの教訓を南海トラフ地震の減災に役立てることは急務となっています。

新潟地震50年、阪神淡路大震災19年、中越大震災10年

巨大災害時を想定した 食への備え シンポジウム ～南海トラフ地震への減災～

講演会では、死傷者の低減という防災対策に加えて、被災者という新たな人的被害者の減災のために「その後続く被災生活の食」の視点から、時間軸の経過とともに変わる食の備えについて問題を提起します。パネルディスカッションでは兵庫、新潟、高知県からのパネリストが、巨大な被災生活を想定した自助、公助でできる「食の備え」について話し合います。

入場無料
【申込先着 150名様】

事前申し込みが必要です。
下記方法にてお申し込み下さい。
(定員に達し次第、申込受付を
締切らせて頂きます)

日時

平成26年10月1日(水) 13:00～16:00

会場

兵庫県立大学大教室 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター東館4階
神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2

プログラム

開会挨拶 吉田 康 株式会社ブルボン 代表取締役社長 一般社団法人健康ビジネス協議会 代表理事会長
メッセージ 泉田 裕彦 新潟県知事 全国知事会危機管理・防災特別委員長 中央防災会議委員
基調講演 「災害食を考える ～非常食から災害食へ～」
講師 奥田和子 甲南女子大学名誉教授 日本災害食学会顧問

パネルディスカッション 「被災生活を支える食の備え～助かったその後の被災生活を考える
自助でできること、公助でできること、災害に備える」

コーディネーター 門脇 基二 新潟大学副学長 日本災害食学会会長
パネリスト 奥田 和子 甲南女子大学 名誉教授
別府 茂 新潟大学大学院 客員教授 NPO法人日本防災士会常任理事
大西 勝也 高知県幡多郡黒潮町 町長

お問い合わせ先
NPO法人 プロジェクト88
☎ 0258-66-8184



お申込みは下記にご記入の上 ファックスまたはメールで FAX 0258-66-0447 ✉ kenbikyou-owner@freeml.com

団体名

所属
役職名

氏名

メールアドレス

住所

電話番号

締切:平成26年9月26日(金)

主催 一般社団法人 健康ビジネス協議会

後援 兵庫県 高知県 新潟県 協力 公益財団法人 いがた産業創造機構 企画運営 NPO法人 プロジェクト88
(予定) 関西広域連合 NPO法人日本防災士会 日本災害食学会